

2011年11月号

いばせき広報室

茨石商事株式会社

〒315-0013

茨城県石岡市府中2-3-19

TEL 0299-24-2680

FAX 0299-23-8056

ホームページ <http://www.ibaseki.com>

E-mail ibaseki@arion.ocn.ne.jp

お客様とIBASEKIを結ぶホットライン

ワクワク通信

私たちは エネルギーと生活関連事業を通じて
地域の顧客満足No.1企業を目指しています

社長エッセイ

年賀のはじまり

今年も早いもので11月より年賀はがきの販売が始まり、当社にも早速予約の注文が入り始めました。しかし若い人を中心に、あまり年賀状を書かなくなつたとも言われています。そもそも年賀状とは？その由来はご存知でしょうか。

平安時代から明治にかけて、お正月の1日から15日まで、その年お世話になつた方々、主君や師匠、父母や親戚、ご近所等の家に年始の挨拶にまわる習慣がありました。それが新年の祝いの書状に代わりました。

年賀状が一般に広まつたのは明治時代以降のことです。近代的な郵便制度が日本に導入された後に似た風習が有り、裕福な武士や商人の間で、飛脚を利用した年賀状の挨拶が行われていました。



初期の郵便配達と郵便ポスト

お年始には行けないような遠く離れた所に住む人に、年始の挨拶を書いた書状を飛脚に託して届けたのです。そして、この習慣は1873(明治6)年に明治政府が郵便はがきを発売し料金の安いはがきを年賀の挨拶



に使えるようになって急速に広がっていききました。12月中に投函された年賀状が元旦に配達されるようになったのは、1906(明治39)年のことだそうです。

今も昔も基本はお世話になつたひとへの挨拶ですね。近年メールが全盛の時代ですが、こんなときこそ年賀状を出す効果があります。パソコンで自作する方も多いと思いますが、一言手書きで言葉を添えることより喜ばれることでしょう。そして特別にお世話になつてくれる人には元旦に届ける事が重要だそうです。

年賀状に関する調査で8割の人が「メールよりもはがきの方がうれしい」と感じ、「知人・友人からの年賀はがきはうれしい」と94.4%の人が思っています。

今年は大震災等有つた年。私もご無沙汰している知人にも出してみようと思つていきます。

(参考)平成23年元日 日本郵便石岡支店の年賀はがき配達数 117万7千通



東京の郵便役所 (現在の日本橋郵便局)

ワクワクふるさと紀行

百観音のあるお寺

「大増の正法寺」

大増集落の通りを加波山の方角へ向かっていくと、その突き当りに大増山正法寺があります。ここは曹洞宗のお寺で、山門の前には加波山を源とする滝が流れ、石橋があります。その先には、二十三夜尊供養塔が数多く並んでいます。

かつて、「講」を組織した人たちが集まり、月を信仰の対象として飲食を共にしながら月の出を待ちました。その際に供養のしるしとして建てた石碑を月待塔と呼び、その一つが二十三夜塔です。

信仰の対象として、十三夜や十五夜、十七夜、二十二夜は観音様を本尊とし、二十三夜は勢至菩薩を本尊としてまつりました。

勢至菩薩は、知恵の光であるゆるものを照し、すべての苦しみを離れ、衆生に限りない力を授ける菩薩といわれています。

月は勢至菩薩の化身であると信じられ、二十三夜講が最も一般的で全国に広まりました。

また、正法寺には珍しい百観音があります。千手観音や聖観音、十一面観音など西国(33カ寺)、秩父(34カ寺)、板東(33カ寺)の観音霊場を合わせた百観音が安置されています。

この観音様を集めたのは当山の諦学和尚でした。江戸時代の文化元年(1804)から文化7年(1810)にかけて江戸の商人を中心に寄進を求めました。最終的に、仏像そろつたのは、文化10年を過ぎてからでしたが、寄進者たちはこれに先祖の供養と現世の幸福を求めていたようです。

本堂へ向かう石段の両脇には、十八羅漢の石像が並んでいます。羅漢とはお釈迦様の弟子をさし、通常は十六羅漢です。正法寺は特別で、これに二人加わっています。羅漢様は、参拝に来る人々を様々な姿で迎えていました。

庭には、幹周り1.5m高さ13mのヤマナシの木があります。これは市の認定保存樹で、長十郎などの梨の元祖といわれる堅い木です。

正法寺は永禄2年(1559)に開かれた古刹で、二十数代に及ぶ伝統あるお寺です。

加波山の山並みは色づき、紅葉は麓にまで降りてこようとしています。正法寺周辺を散策しながら、静かな山里の秋に触れてみてはいかがでしょうか。



正法寺の山門

いばせき information

「簡単クリスマスディナー料理講習」参加者募集

年賀八ガキ店頭販売のご案内
ばらき台地区、灯油定期配送
のお知らせ

第14回 紙上展示会開催中

《茨石特別企画》

人気レストランロッシュの岩崎シェフと作る

『家庭でできる簡単クリスマスディナー料理』講習

日時：平成23年12月10日(土)

午前10時30分～

場所：茨石商事(株) 1F

定員：10名程度

会費：おひとり千円

内容：岩崎シェフが料理の実演

をしながら、手順やポイントを説明しますので、

皆さんでご覧になって下さい。盛り付けのテクニ

ックも披露します。完成

したアツアツのお料理を

囲んで、皆さんで楽しく

いただきます。

《当日のメニュー》

ピザ・ローストビーフ・プリン

ほか メニューは変更になる場合

があります。

参加者募集中です！

お申込み・お問合わせは、茨石

商事フリーダイヤル

0120 41 2680

平成24年版

お年玉付き年賀八ガキ

好評発売中！

イバセキ店頭にて年賀八ガキを発売中です。ご来店のついでに、是非お買い求め下さい。また、お電話にてご注文頂ければ、**無料**でお届け致します。枚数は自由ですので、少量からでもお気軽にご利用下さい。



今年は海外の知人に送ってみようかな！

通常**プラス20円**で、年賀八ガキを世界中へ送れます。航空便の場合

ばらき台団地にお住まいの方へ

お待たせしました！
12月6日から灯油定期配送が始まります。

冬期限定、灯油の定期配送を
本年12月～平成24年3月末まで
で行います。

訪問は毎週火曜日のAM中
です。灯油の価格等は変動致しま
すので、お気軽にお問合せ下さ
い。

『第14回 紙上展示会』

開催中

お得な価格で応援します

毎年恒例の「紙上展示会」が始まりました。ガス機器をメインとした、大特価キャンペーンです。そのほか、省エネでエコロジーな新エネルギー機器や、美容と健康をテーマにした新商品も満載です。

更に今年は「がんばっぺ茨城」応援金として、最大1万円が付いたお得なガスコンロが勢ぞろいです。

年に一度、3ヶ月間限定のこの大チャンスは是非お見逃し無く！また、期間中にお買い上げ頂いた方の中から合計400名様に豪華賞品が当たります。

《平成23年12月末日まで》



紙上展示会のカタログは、先月(10月)の検針時にお配りしましたが、ご希望の際は再度お届けも致しますので、お気軽にお申し込み下さい。

気になるお店

渡舟の蔵元 府中普

「大震災で茨城の蔵は大きな被害を被りました。その多くは建屋の被害で、幸い生産設備は大丈夫でした。うちの蔵も同様で、蔵や倉庫、作業場、母屋などすべてに補修が必要な状況です。」大震災から半年以上過ぎても修理は終わらず、訪れたときも工事中でした。

「お陰さまで、生産は続けられましたので、仕込みは9月末から始まりました。」社長の山内孝明さんは、そう言って笑顔を見せました。



安政年間の蔵を持つ府中普は、伝統の技を基本に「太平海」や「府中普」「渡舟」などの銘酒を地道に作り続けてきました。特に幻の酒米を復活させた「渡舟」はその芳醇な味でファンが多く、アメリカやヨーロッパにも進出するようになりまして。

同社のパンフレットには、次のような言葉が書かれています。「府中六井の水の恵みと、蔵人の丹精な技に守られて、美酒は静かに時を待つ」と。

を受付けています。見学時間は、**午前10時から午後4時まで**。1週間前までに予約が必要です。

蔵では、精米(洗米)蒸米(麹(こうじ)醪(もろみ))搾りといった酒造りの工程が行われていて、その過程を見ることが出来ます。酒造りに適した石岡の気候と大地、そして水の恵みを生かした歴史と伝統がそこに息づいています。江戸時代からの酒蔵を、ぜひ訪れてみてください。

お酒の味が、一味も二味も変わることでしょう。

府中普株式会社
石岡市国府5-9-32
電話 233-0233

『読者プレゼント!』

気になるお店で紹介した府中普で大人気の「渡り舟焼酎」を抽選で5名様にプレゼントします。(20才以上の方限定)

お申し込みはお八ガキで、住所・氏名・TEL・ワクワク通信の感想をお書き添えの上、11月30日までに応募下さい。【当日消印有効】

〒315-0013

石岡市府中2-3-19

茨石商事(株) いばせき広報室

「渡り舟焼酎」プレゼント係

当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせて頂きます。